

二〇二四年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験二期

国語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章は、人間の子どものようにことばを身につけるのか、また、世界の認識や思考の方法について、人間とほかの動物は何が違うのかを論じた本の一部です。文章を読み、後の問に答えなさい。

「すべての対象には名前がある」という気づきは、言語という記号体系を自分で構築していくための一步を踏み出すための偉大な洞察であると前章で述べた。ところで、この洞察にはその下にもう一つ大事な洞察が埋め込まれている。名前というのは、形式(ことばの音や文字)と対象の間の双向の関係から成り立っているという洞察である。どういうことか。

ある対象についてKUTSUということばの音を聞いたとしよう。子どもは、「くつ」と大人が呼ぶモノはKUTSUという音で表すことを覚える。^{注1}「くつ」の一事例を見せられて、「これは何?」と問われたら、やがて「KUTSU」と答えられるようになる。同様に子どもは、黄色い甘い果物の名前が「BANANA」と呼ばれることを覚え、その果物を大人が指差して「これ何?」と聞いたら「BANANA」と答えることができるようになったとする。しかし、その子どもが、バナナ、リンゴ、ミカンが入っているボールから「BANANA」を取ってと指示されたのに、リンゴを取ったりミカンを取ったりしたら、親はわけがわからず、ビックリするだろう。

だが、ことばの形式と対象の間には双方向性の関係性があるという、人間にとって当たり前のことは、動物にとっては当たり前ではないのである。^{注2}今井が何年も前に見た、ある動画を紹介したい。京都大学霊長類研究所(当時)の松沢哲郎教授とチンパンジー「アイ」の実験の動画だった。

アイは訓練を受けて、異なる色の積み木にそれぞれ対応する記号(絵文字)を選ぶことができる。黄色の積み木なら△、赤の積み木なら◇、黒の積み木なら○を選ぶという具合である。アイはこれをほぼ完璧にできるといえる。訓練のあと、時間が経ってもその対応づけの記憶は保持されていた。

しかし、動画後半の展開は衝撃的だった。今度は、アイに、記号から色を選ぶよう指示した。黄色、赤、黒など、最初の訓練で用いた色の積み木を用意した。△を示したら異なる色の積み木から黄色い積み木、◇を見せたら赤い積み木、○を見せたら黒い積み木を選べると、当然私たちは予想する。自分の子どもでそれができなかつたらパニックになるかもしれない。だがアイは、訓練された方向での対応づけなら難なく正解できるの

に、あの対応づけ、つまり異なる記号にそれぞれ対応する積み木の色を選ぶことが、まったくできなかったのである。

人間の子どもの言語の発達を研究する今井は、この事実^{注4}に驚愕し、興味を掻き立てられた。普段文献をフオーローしている人間の子どもの言語発達の分野で、このような事実を指摘する論文をそのときまで読んだことがなかった。a、ヒトの幼児のことばの意味の推論を研究した実験は、

ほとんどすべて、子どもにある対象を指差して「ネケ」という新奇なことばを教えた場合、子どもが「ネケ」ということばを理解したかどうかを確かめるために、その対象とそれとは異なるモノと一緒に見せ、「ネケはどれ？」と聞く方法が標準的であった。

しかし、この実験の方法は、AはXであると教えたときに、子どもが同時に逆方向も学習できており、XはAであると「教わる」ことを想定しているのだ。b、この黄色い積み木はKIROであると教えたとき、KIROという音は黄色い積み木を指すとか、この赤くて丸い果物はRINGOで

あると教えたとき、その逆のRINGOという音は赤くて丸い果物なのだと思ひこむことを想定している。この逆方向への一般化こそが、特定の音が対象の名前なのだという理解を支えているとも言える。

だが、よくよく考えてみると、この一般化は論理的には正しくない。「AならばX」は、「XならばA」と同じではない。このことは、「ペンギンならば鳥である」が正しくても、「鳥ならばペンギンである」は正しくならないことからすぐわかることだ。

アイが「黄色い積み木は△、赤い積み木は◇」と学習しても、「△は黄色い積み木、◇は赤い積み木」と選べないのは、論理的にはcのである。

対象↓記号の対応づけを学習したら、記号↓対象の対応づけも同時に学習する。人間が言語を学ぶときに当然だと思われるこの想定は、論理的には正しくない過剰一般化なのである。

(★)

「AならばX」を「XならばA」に過剰一般化することは、人間には日常的に頻繁に見られることである。以下は、私たちがとくに「推論」だという感覚も持たずに行っている推論である。

太郎は仕事が5時までに終わったら、飲み会に参加すると言った。太郎は飲み会にこなかった。よって太郎は5時までに仕事が終わらなかったに違いない。

外を見たら道路が濡れていた。気づかないうちに雨が降ったに違いない。

右の二つの例は「間違い」だとは思わないだろう。しかし、これは論理学では「後件肯定の誤謬^{ごしやう}」と呼ばれる「論理の誤り」なのである。太郎が飲み会に来なかったのは、仕事が終わらなかったためとは限らず、他の急用ができたためかもしれないし、疲れたので家で休みたくなったためかもしれない。地面が濡れていたのも、可能性は薄い放放水車が水を撒いたのかもしれない。

後件肯定が誤謬であることは、次の例を見るとわかりやすい。

英雄は色を好む。Xは色を好む。だから、Xは英雄である。

英雄色を好むというのは有名な格言である。しかしXが色を好むからといって、Xが英雄とは限らない。英雄でない色ごのみの人物がたくさんいることを私たちは知っている。

そして、これとまったく同じ論理形式のこのような例はどうだろう。

新型コロナウイルスに罹患^{りかん}すると、喉が痛くなり、発熱^{はつねつ}することが多い。今、私は喉が痛くて熱がある。だから私は新型コロナウイルスにかかっている。

喉が痛くなる病気は新型コロナウイルスだけではない。インフルエンザかもしれないし、他の病気で同じ症状が出ることも十分ありうる。しかし多くの人は、新型コロナウイルスが流行しているときにこのような症状が出たら、当然のように自分もコロナ感染をしたのではないかと疑うだろう。

そもそも病気の診断は、たいていの場合、症状からその原因（病名）を遡^{さかのぼ}及的に推論するアブダクション推論^{注5}である。もちろん現代医学では病名を確定するためにさまざまなテストを行う。しかし、第6章で述べたように、医師が最初に病気について症状から予測ができなければ、何のテストを行うかを決めることができないのである。

人間の子どもは、幼少時からこのような d 思考を行う。それを垣間見ることができるエピソードを、再び「ゆる言語学ラジオ」のデータベースから紹介しよう。

ラジオネーム…バタフライエフェクトさん（2歳7か月）

天気予報が雨の日は「今日は雨だから長靴履こうね」と言って、長靴を履かせていました。ある長靴を履いて出かけた日、予報通り雨が降って

きたとき、「今日は○○（自分の名前）が長靴を履いたから雨が降ったの？」と聞かれました。雨が降るから長靴を履いたのに、論理が逆転して長靴を履いたから雨が降ったと勘違いしたようです。

原因と結果をひっくり返す。大人でもよくあることである。たとえば、いつも店の前に長い行列がある店があると、「（おいしいから混んでいる）ではなく」混んでいるからおいしい」と考え、つられて自分も列に並んでしまう。これと関係するのが、必要条件と十分条件をひっくり返すバイアスだ。^{注8}

筆者たちは大学生を教えているが、「8割の出席が単位取得の必要条件」と伝えらるゝと、多くの学生は「8割出席すれば単位がもらえる」と思うのである。

先ほど、チンパンジーのアイは、色と記号（絵文字）の対応づけについて、色↓記号の方向で訓練し、記号↓色のテストをしたとき、まったくランダムな反応になってしまったという研究を紹介した。前項で見たように、前提と結論をひっくり返してしまう推論——これを心理学では対称性推論という——は、アブダクション推論と深い関係がある、eな推論である。だとしたら、動物はアブダクション推論をするのか、という疑問が湧く。

^{注10}デイヴィッド・プレマックというアメリカの心理学者は、動物がアブダクション推論をするか、とくに、動物が結果から原因について推測すると思われる根拠はないと結論づけている。彼は次のように述べている。「動物は、自分自身の行為が原因にならないような現象（たとえば、風で樹が折れる現象）がi的事象であることを学習するのだろうか。おそらく動物でも、大きな岩は小さな岩よりも樹の枝を折りやすいということはわかるだろう。

しかし、大きな岩が折れた枝のそばにあるのを見たときに、その岩が枝を折ったと推測できるだろうか？それを示す証拠はこれまでに報告されていない」。このことに関連して、^{注11}ベルベットモンキーは、天敵である蛇が砂地の上に跡を残して這うのを見ることがあっても、蛇の這った跡から蛇の存在を予測できない、という興味深い報告がある。このサルたちは、蛇がいない状態で跡を見ても不安を示したりはしない。すなわち、砂の跡は蛇が近くに

いることを意味する、と予測するような学習は起こらないのだ。

f、ヒトは自分に直接関わりのない自然現象などについて、因果関係を認識する（というより、その必要がなくても原因を推測してしまう）。動物が対称性推論をするかどうかの問題は、ヒト以外の動物が因果推論に代表される非論理的で経験則に基づく推論をできるかという問題につながる。世界中の多くの研究者たちが関心を持ち、長年取り組んできた。対象となった動物もチンパンジーやサル、ネズミ、アシカ、ハト、（鳥類でもっとも賢いとされる）カラス、カケスなど多様である。

（今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』より なお本文に適宜省略・改変を加えた）

注1	前章	……	この文章は『言語の本質』の第7章の一部であり、前章はその前の第6章をさす。
注2	今井	……	筆者である今井むつみ氏をさす。
注3	松沢哲郎	……	一九五〇年生まれ。霊長類学者。
注4	フォロー	……	関係する分野の文献を常に探して読むようにすること。
注5	アブダクション推論	……	結果からその前提を推論すること。逆行推論。
注6	第6章	……	注1の「前章」に同じ。
注7	ゆる言語学ラジオ	……	ことばに関する内容を取りあげるインターネットの番組。
注8	バイアス	……	先入観。
注9	前項	……	文章の(★)より後から、この注9の二行前までの部分をさす。
注10	デイヴィッド・プレマック	……	一九二五年生まれ、二〇一五年没。アメリカの心理学者。
注11	ベルベットモンキー	……	サル的一种。アフリカ原産。体長三〇～六〇センチ程度。

問一 空欄 a へ f へ に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

a	ア	しかし	イ	その一方で	ウ	実際	エ	ただし
b	ア	逆に	イ	ちなみに	ウ	おそらく	エ	つまり
c	ア	まったく正しい	イ	矛盾する	ウ	やや疑問が残る	エ	わからない
d	ア	極めて論理的な	イ	論理を逆転させた	ウ	社会の規範にあわない	エ	非常に抽象的な
e	ア	非常識	イ	論理的	ウ	非論理的	エ	科学的
f	ア	つまり	イ	また	ウ	ただし	エ	それに対して

問二 空欄

--

 あ

--

 と

--

 い

--

 に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれ本文中から二字以上、三字以内で抜き出しなさい。

問三 本文の内容に即して考えたとき、傍線部X「右の二つの例」と同様の例と言えるものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 日本人は勤勉だと言われるが、だからといって、かならずしも日本人全員が勤勉なわけではない。
イ 彼は誰にでも親切で優しいので、みんなに好かれている。そんな彼のことを嫌うのはおかしい。
ウ がんばって練習すれば予選を通過できると言われたのに落ちたのは、練習が足りなかったからだ。
エ 年配の人が言うことに従うべきだと言われるが、年配の人の意見にも、きつと間違いがあるだろう。

問四 本文のはじめから(★)印までの文章の主旨を百字以内にまとめ、かつ小見出しを十五字以内で付けなさい(句読点なども字数に含みます)。

問五 次の1～6の文について、本文の内容にふさわしいものには○を、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 人間は、原因と結果が逆になった推論をするが、ほかの動物はしないと考えられる。
- 2 人間の推論は論理的だが、ほかの動物の推論は人間ほど論理的ではない。
- 3 人間の子どもは脳が未発達なので、論理的でない推論をしてしまう。
- 4 「後件肯定の誤謬」は、医師の誤診など、人間の生活に悪影響を及ぼす。
- 5 「後件肯定の誤謬」は、人間の日常生活の中で頻繁に起こることである。
- 6 「KUTSU」ということばを聞かせて「くつ」というものを選ばせるような方法は、実験の方法として適切ではない。

Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 彼はカモクな人物だ。
- 2 物価がキユウトウしている。
- 3 身命をトして研究に没頭する。
- 4 キユウクツな住まいから転居する。
- 5 体操選手は優れたヘイコウ感覚をもっている。

問二 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 昼夜を問わず勉強に勤しんできた。
- 2 疑いを払拭する。
- 3 旅先で旧友と邂逅する。
- 4 不祥事によって組織が瓦解する事例は少ない。
- 5 人間関係に軋轢を生むことは避けたい。

問三 次の1～5の四字熟語の□に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 □岐亡羊
- 2 羊□狗肉
- 3 一蓮托□

4 □三暮四

5 破□一笑

問四 次の1～5の語句の表す意味として最もふさわしいものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

1 不世出

ア 俗世の垢にまみれていないこと

イ 世間で実力を評価されないこと

ウ 世に現れるのが稀なほど優れていること

エ 世間で活躍することを許されていないこと

2 逆説

ア 一見常識に反しているようで実は一面の真理を表すこと

イ 前文までの論理の流れとは反する内容を述べること

ウ 最終局面にきて一挙に今までの論理の流れを覆すこと

エ 隠された真実を明るみに出すために、反証すること

3 漸次

ア 急激に

イ しだいに

ウ その度ごとに

エ 気ままに

4 薰陶

- ア 恩師の教えを心に刻み忘れないこと
- イ 厳しい教訓を体に覚えこませること
- ウ 学問・芸術の成果を世に知らしめること
- エ 優れた人格で人を教育すること

5 腐心

- ア 心を悩ますこと
- イ やる気を失うこと
- ウ 倫理観を失うこと
- エ 不信感が募ること

問五 次の1～5の単語の対義語をそれぞれ後の【語群】から選び、記号で答えなさい。

- 1 杜撰ずさん
- 2 崇敬
- 3 豪胆
- 4 永劫えいこく
- 5 斬新

【語群】

ア	冒瀆 ぼうとく
イ	陳腐
ウ	明解
エ	臆病
オ	精密
カ	末梢 まつしやう
キ	熟視
ク	刹那

国語 解答用紙

総 計

I

小 計

小 計

小 計

小 計

受験番号

問一	a
	ウ
	b
	エ
	c
	ア
	d
	イ
	e
	ウ
	f
	エ

問三

ウ

問二	あ
	逆
	方
	向
	い
	因
	果

問四	こ
	と
	ば
	の
	形
	式
	と
	対
	象
	の
	双
	方
	向
	性

(主旨)	人	間	は	、	記	号	で	あ	る	あ	る	こ	と	ば	を	聞	い
	て	そ	の	対	象	で	あ	る	物	を	教	え	ら	れ	れ		
	ば	、	物	を	見	て	対	応	す	る	こ	と	ば	を	選		
	択	で	き	る	が	、	チ	ン	パ	ン	ジ						
	な	い															
	想	定	は	、	論	理	的	に	正	し	く	な	い	過	剰		
	一	般	化	な	の	だ											
	95																90
					50												

小 計

問五	1
	○
	2
	×
	3
	×
	4
	×
	5
	○
	6
	×

II

小 計

問一	1
	寡
	黙
	2
	急
	騰
	3
	賭
	して
	4
	窮
	屈
	5
	平
	衡

小 計

問四	1
	ウ
	2
	ア
	3
	イ
	4
	エ
	5
	ア

小 計

問五	1
	オ
	2
	ア
	3
	エ
	4
	ク
	5
	イ